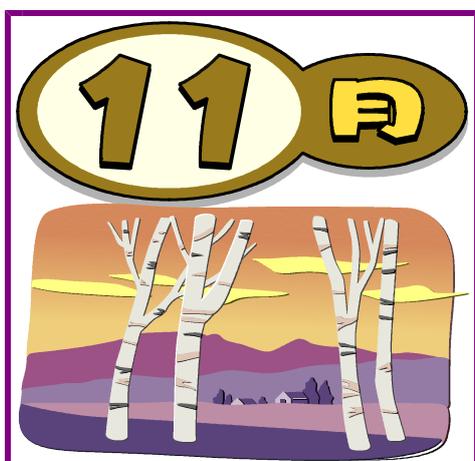


めぐみイエス・キリスト教会

2024年11月10日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第731号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌235「罪 重荷を除くは」 p. 356

【交読文】 No.48 イザヤ書35章 p. 917

【賛美Ⅱ】 新聖歌448「神より生まれし者よ」 p. 722

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「ラッパを吹き鳴らせ」

【聖書朗読】 ルカの福音書7章18節～23節(新約p. 124下段)

【礼拝説教】 《ヨハネの弟子たちの訪問》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄与」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書7章18節～23節)

7:18 さて、ヨハネの弟子たちは、これらのことをすべてヨハネに報告した。すると、ヨハネは弟子たちの中から二人の者を呼んで、

7:19 こう言づけて、主のもとに送り出した。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか。」

7:20 その人たちはみもとに来て言った。「私たちはバプテスマのヨハネから遣わされて、ここに参りました。『おいでになるは

ずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか』と、ヨハネが申しております。」

7:21 ちょうどそのころ、イエスは病気や苦しみや悪霊に悩む多くの人たちを癒やし、また目の見えない多くの人たちを見えるようにしておられた。

7:22 イエスは彼らにこう答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。」

7:23 だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」

●ポイント1. マルコの福音書から

※マルコの福音書1章14節～15節「異なっている時制」 (新約p.65)

1:14 ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。

1:15 「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

●ポイント2. バプテスマのヨハネと彼の弟子たち

※ヨハネの福音書3章22節～30節「重なっていた働き」(新約p.180下)

●ポイント3. 現代訳から

※ルカの福音書7章19節

7:19 するとヨハネは、弟子たちの中から二人の者を呼んで、主のもとに送り、こう言わせた。「あなたこそ、あの来るべき救い主です。それとも、私たちはほかに待つべきだとおっしゃるのですか。」

◎先週のメッセージ【やもめの一人息子のよみがえり】

《主イエスが、カペナウムからナインの町に向かわれ、町に近づいた時のことです。町の門から、葬式の一団がやって来たのです。

それは、ある母親の一人息子が、死んで担ぎ出される所でした。彼女はやもめで、一人息子を頼りに生きていたのでしょう。そして、今度は、その息子も失ない、今まさに墓に葬ろうとしているのです。

主イエスは、その母親を見て、深く哀れまれたとあります。号泣している母親の姿を見た時、主はかつて自分の家族に起こったことを思い出されたに違いありません。もしかしたら、この母親と、育ての父ヨセフをなくした時の母マリアの姿とが、重なったのかも知れません。

主は言われます。「泣かなくてもよい」と。そして、近寄って棺に触れられ、「若者よ、あなたに言う。起きなさい。」と言われたのです。

すると、その死人が起き上がって、ものを言い始めたとあります。この場面を見た弟子たちや、またカペナウムから着いて来た群衆とナインの町の人々の驚きは、いかばかりであったことでしょう。

主イエスは公生涯において、三人の人を生き返らせています。一人目が、ナインのやもめの一人息子で、二人目が、カペナウムの会堂管理人ヤイロの一人娘です。そして、三人目が、ベタニアのマルタとマリアの弟ラザロです。ラザロの場合は死後4日が経過しています。

大切なことは、主イエスこそ「命の主」であり、やがて私たちを確実によみがえらせて下さるお方だと言うことです。この三人は、確かに主によって生き返らせていただいたのですが、やがてもう一度死んだことは間違いありません。また、主イエスは、癒し主でもあられます。「すべて疲れた人、重荷を負っている人は私のもとに来なさい。私があなたがたを休ませてあげます。」と、主は言われます。

主の御もとに行きましょう。癒して下さいます。回復して下さいます。なぜなら、このお方がすべての命を司っておられるのですから。》

◎お知らせ

※11月17日の第二主日礼拝は、平常通り、午前10時からです。